

W-16-01

## 新たな薬剤師生涯学習プログラムの構築について

とよしま さとし  
豊島 聡

公益財団法人日本薬剤師研修センター 理事長

薬剤師の社会的役割は、薬の専門職（薬物療法の要）として、優れた薬学的ケアを行うことにより、国民の健康を管理し向上させることにある。近年、チーム医療の充実、地域包括ケアシステムの充実が推進され、薬剤師職能に対する期待も増してきている。この期待にこたえ、薬剤師がその職能を十分発揮するためには、薬剤師として求められる資質を充足するとともに十分な薬剤師職能能力を獲得するための研鑽を積むことが必須である。また、同時に薬物療法の専門職としての役割・能力が社会的に認知・理解され、職能を十分に発揮できる環境が整備されることが必要である。具体的には、街の健康拠点としての薬局にあっては地域の保健・医療における実践的能力を有する管理薬剤師、病院薬剤部にあっては主任クラスの薬剤師（ジェネラリスト：総合薬剤師）に対し、その実力を発揮できるように支援することである。我が国の薬剤師は、国家試験に合格すれば特段の瑕疵等がない限り一生資格を失わず、生涯学習は、基本的に自己選択によるものであるため、学習成果の程度は個人により全く異なっている。そのため、実力ある薬剤師が社会的になかなか認知されない現状がある。薬物療法の専門職としての役割・職能が社会的に認知・理解されるためには、職能を有する薬剤師の養成・選別と認知・理解への支援が必要である。すなわち、薬剤業務全般に精通するとともに、他の薬剤師に対して支援等を行える総合薬剤師の養成とこのような実力ある薬剤師の評価・選別および、その評価結果が社会的に認知されるシステムの構築が必要と考えられた。そのため、2012年末、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬剤師研修センターの5団体の長が一堂に会し、厚生労働省の協力も得て、新たな薬剤師生涯学習プログラムを構築することに合意した。この新たな薬剤師生涯学習プログラムは、薬剤師の生涯学習と学習成果の社会的認知を支援するものである。中心となるのは新規の総合薬剤師評価システムであり、試験等により資質・能力を判定（十分な職能を有する薬剤師の抽出）するもので、その評価組織は前述の5団体により構成されることになっている。このシステムによる評価は公益性の高い薬学関連組織による共同評価であるので、生涯学習の成果がより対外的に認められることが期待される。さらに、これにより認定された薬剤師の職能が社会的に認知されることで、他の医療職種からの信頼を得やすくなり、チーム医療の推進、ひいては医療の質の向上に寄与することが期待される。このシステムの構築については、平成25年度厚生労働科学研究「6年生薬剤師の排出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」の研究報告書（分担研究報告：新たな薬剤師生涯学習プログラムの構築に関する研究、分担研究者：豊島）に記載の通りである。このプログラムは、いまだ構築中であるため、本講演では、分担報告書の内容の詳細を中心に話をさせていただく。



W-16-01

## 新たな薬剤師生涯学習プログラムの構築について

とよしま さとし  
豊島 聡

公益財団法人日本薬剤師研修センター 理事長

薬剤師の社会的役割は、薬の専門職（薬物療法の要）として、優れた薬学的ケアを行うことにより、国民の健康を管理し向上させることにある。近年、チーム医療の充実、地域包括ケアシステムの充実が推進され、薬剤師職能に対する期待も増してきている。この期待にこたえ、薬剤師がその職能を十分発揮するためには、薬剤師として求められる資質を充足するとともに十分な薬剤師職能能力を獲得するための研鑽を積むことが必須である。また、同時に薬物療法の専門職としての役割・能力が社会的に認知・理解され、職能を十分に発揮できる環境が整備されることが必要である。具体的には、街の健康拠点としての薬局にあっては地域の保健・医療における実践的能力を有する管理薬剤師、病院薬剤部にあっては主任クラスの薬剤師（ジェネラリスト：総合薬剤師）に対し、その実力を発揮できるように支援することである。我が国の薬剤師は、国家試験に合格すれば特段の瑕疵等がない限り一生資格を失わず、生涯学習は、基本的に自己選択によるものであるため、学習成果の程度は個人により全く異なっている。そのため、実力ある薬剤師が社会的になかなか認知されない現状がある。薬物療法の専門職としての役割・職能が社会的に認知・理解されるためには、職能を有する薬剤師の養成・選別と認知・理解への支援が必要である。すなわち、薬剤業務全般に精通するとともに、他の薬剤師に対して支援等を行える総合薬剤師の養成とこのような実力ある薬剤師の評価・選別および、その評価結果が社会的に認知されるシステムの構築が必要と考えられた。そのため、2012年末、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本薬剤師研修センターの5団体の長が一堂に会し、厚生労働省の協力も得て、新たな薬剤師生涯学習プログラムを構築することに合意した。この新たな薬剤師生涯学習プログラムは、薬剤師の生涯学習と学習成果の社会的認知を支援するものである。中心となるのは新規の総合薬剤師評価システムであり、試験等により資質・能力を判定（十分な職能を有する薬剤師の抽出）するもので、その評価組織は前述の5団体により構成されることになっている。このシステムによる評価は公益性の高い薬学関連組織による共同評価であるので、生涯学習の成果がより対外的に認められることが期待される。さらに、これにより認定された薬剤師の職能が社会的に認知されることで、他の医療職種からの信頼を得やすくなり、チーム医療の推進、ひいては医療の質の向上に寄与することが期待される。このシステムの構築については、平成25年度厚生労働科学研究「6年生薬剤師の排出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」の研究報告書（分担研究報告：新たな薬剤師生涯学習プログラムの構築に関する研究、分担研究者：豊島）に記載の通りである。このプログラムは、いまだ構築中であるため、本講演では、分担報告書の内容の詳細を中心に話をさせていただく。